

# 福部未来学園中だより

平成28年度 第4号  
平成28年6月20日発行  
鳥取市立福部未来学園中学校  
鳥取市福部町高江 485-3

<http://www.torikyo.ed.jp/fukube-j/>

## 謙虚に生きる

東京都の舛添都知事が辞任届を提出されるまでの一連の流れから、校長として多くを学ばせていただきました。なかでも、批判を受けたら、まず謙虚な姿勢でその批判を受け止める大切さです。批判は誰でも辛いものですが、向き合わないことには次へは進めません。逆に批判を受ける人は、大きな期待や責任を背負っている人でもあるわけです。『ノブレス・オブリージュ』という言葉があります。直訳すると「高貴さは義務を強制する」を意味し、社会的地位の保持には責任が伴うことを指しています。舛添都知事が「批判は期待の裏返し」と、しっかりと受け止める謙虚さが発覚直後に持っていたら、事態は変わった展開になったかもしれません。人間性が招いた今回の辞任劇、他山の石として私自らも人間性を磨かなければならないと考えさせてくれた出来事でした。

この出来事が気になり、渡辺淳一氏の「光と影」を読み直してみました。この作品は明治・大正時代に生きた第15代総理大臣寺内正毅（てらうち まさたけ）と小武敬介（おぶ けいすけ）の人生に明と暗を照射させた物語です。

二人は陸軍の下級幹部養成所の同期生。寺内は可もなく不可もない普通の成績の生徒でしたが、小武は文武に長けた秀才でした。二人はそろって西南戦争に参戦し、二人とも右上腕部に貫通銃創を受けます。二人は病院に入院し、手術を受けることとなりました。手術は小武、寺内の順で行われました。

小武は当時の常道で右腕を切断。寺内は、執刀医師の気まぐれから、実験的に腕を切り落とさない手術へと切り替わりました。

この結果、切断された小武は治りも早く、退院後は予備役に編入。九段の偕行社（かいこうしゃ）に職を得ます。一方、腕が残ったままの寺内は、化膿と発熱の繰り返し。苦痛に耐えかね「切断して欲しい」と申し出たりもしましたが、執刀医師はなだめなだめ経過を見守りました。そのうちに化膿も治まり、機能を全く失った右腕のまま無事に退院。幸いにも寺内は軍に留まることができ、そして不思議と順調に出世していきました。

明治34年、小武は偕行社の事務長、寺内は陸軍大臣となり、ある日、小武は事務報告に寺内に会いに行くことになりました。小武は、内心では寺内を見下し、自分と寺内との格差を受け入れ難く思っていました。一方、寺内は旧友の難状を何とかしてやりたい一心で、高価で入手困難な義手を小武のために準備していました。しかし、小武は、「生半可な同情などはやめてくれ。俺はそんな手にはひっかからん。俺は俺で、お前はお前だ」そして、「うるさい。この能なしめ！」と、怒声をあびせて暴れ回り、ついには縄をかけられて家に帰らされてしまいました。

小武は60歳になり偕行社を退職します。長年、心の奥に留めていた疑問を執刀医師に伺いいたします。医師は「カルテが小武、寺内の順においてあったからだ」と、

何も気に留めず言いました。それ以来小武の行動に異常さが始まる、巢鴨の廃兵院に収容されることになりました。

大正5年、寺内は総理大臣になり、3年後に亡くなりました。小武もその2年後に廃兵院で死をむかえました。小武が心で思い続けた、もしも小武と寺内の手術の順番が逆であったら、小武は総理大臣になれたのでしょうか？私は「ノー」だと思っています。自分の能力を過信し、他人を見下したり、現状を謙虚に受け入れられなかったりする者は必ず災難を自らに招くこととなります。この「光と影」、都知事辞任劇は多くの示唆を与えてくれています。

福部未来学園中学校長 木村 正人  
大山賛歌（2番）

あなたがもしも 愛する人と  
明日のひかりを 夢みていたい  
そのときは大山に行こう  
北壁のきびしさが  
ふたりに人生をおしえてくれる

そう、大山はひかりが いっぱいだから

3年ぶりに、生徒と一緒に大山の頂上に立ちました。今年の大山は、雨との戦いでした。天気予報が芳しくなく、大山に着いたときも小雨模様でした。しかし、前回もお世話になったベテラン登山ガイドの吉野さんの「大丈夫です。今日、登りましょう」という言葉に意を決し、登山道に向かったのです。

休憩を挟みながら、少しずつ少しずつ登っていきます。降ったり止んだりの雨の中、生徒を励ましながら、同時に自分も奮い立たせます。だんだん歩みが遅くなり、「体力が落ちたなあ…」「生徒より先に脱落するかも…」と弱気になりかけるのを、ぐっとこらえます。そんなとき、頭上から「先生、ファイト～！」というSくんの声が何度も聞こえてきました。もしも自分1人で登っていたら、おそらく六合目あたりで引き返していたでしょう。今回、私が頂上まで登ることができたのは、彼のおかげです。きゃらぼくエリアを抜けると、頂上はすぐそこです。さえぎるものが何もない木道の上で、強烈な風と雨にふらつきながら、ついに頂上にたどりつきました。みんなびしょ濡れなのに、笑顔があふれます。あたりは一面真っ白で、絶景は望めませんでしたが、全員でここまでたどりついた喜びは格別でした。

無事に下山した後も、各班が工夫を凝らした出し物で楽しませてくれた夕べの集い、静寂に包まれながら無心の境地になった阿弥陀堂での座禅、キャンプ場で煙と玉ネギで涙を流しながら作ったカレーライスなど、思い出に残る2日間になりました。その中でも、大山の頂上で歌った「大山賛歌」を忘れることはないでしょう。

歌詞の中にあるとおり、今回は大山に人生の厳しさを教えてもらったような気がします。讃えましょう、大山を。ありがとう、大山！ 教諭 杉田 克己

## 福部未来学園中学校 公式戦デビュー

本年は福部未来学園中学校として、東部地区大会に参加の初年です。激励会で校長先生から「チームとして気持ちを一つにしてがんばってほしい」という言葉を胸に、それぞれが福部未来学園中学校のチームの一員として頑張ってくれました。主な結果は次の通りです。

### ◎東部地区総合体育大会

☆バドミントン：団体：準優勝

個人：ダブルス 第5位 佐藤翼・大谷友哉  
第6位 南部耕佑・山根翔伍  
シングル 第7位 門脇波音



☆ソフトテニス：団体：第5位

個人：ベスト24 小谷帆乃花・前田優花

☆野球：1回戦 惜敗



### ◎東部地区陸上競技大会

男子砲丸投げ：準優勝 鶴木勇志

2年男子1500m：第3位 別所響

男子400m：第6位 田中聖也



### ◎サマーブラスコンサート（吹奏楽部）

「学園天国」「空に唄えば」

## 今年もより仲良く！共に学び、活動します

幼小中一貫校となり、中学校に小学校の先生方が教えに来てくださったり、中学校の先生が小学校に教えに行ったりを日常的に行っていますが、園児・児童・生徒の交流も昨年以上に活発に行います。



6月には「小中合同音楽」「縦割り班活動」を実施しました。中学生が幼稚園児や小学生をリードしながら、ともに学び、活動ができました。今後「らっきょう収穫」「地区運動会」「文化祭」と様々な学習や行事を一緒に行っていきたいと思えます。

## 第1回「福部未来学園運営協議会」を開催しました

この4月の「福部未来学園」開校に伴い、コミュニティ・スクールとして「学園運営協議会」を設置することになりました。「学園運営協議会」は、地域や保護者の代表が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することで、その思いや願いを学校運営に反映させ、より魅力的な学園づくりやよりよい教育の実現に取り組む機関です。また、そのことによって地域全体の活性化にもつなげていこうというねらいがあります。



6月7日（火）の午後、第1回「福部未来学園運営協議会」を開催しました。会の冒頭、鳥取市教育委員会より「学園運営協議会」についての説明及び委員の「任命」が行われました。協議では、幼小中の学校園経営や教育・事業内容について活発な意見交換が行われました。今後も学園の魅力や課題などを共有し、組織的・継続的な取組を進めていきたいと思えます。